学校番号	109

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	現代文Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	桐原書店「新　探求現代文Ｂ」						
副教材等	「共通テスト対策　完答１６」（尚文出版） 「重要漢字リアルマスター3300」（尚文出版）・「国語便覧」（数研出版） 「現代文キーワード読解」（Ｚ会）・「ちくま評論選　二訂版」（筑摩書房）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

難度の高い評論、小説等を丁寧に読み込んでいくことで読解力や思考力を身につけるとともに、現代社会の様々な問題に対して意識的に関わろうとする意志や知性を育てましょう。

２学期中間までは教科書を中心に学習し、２学期末以降は大学入試共通テスト対応問題集を使って解法のテクニックを身につけましょう。

２　学習の到達目標

１．明治期の擬古文に親しみ、読解する力を養う。
２．現代評論の理解を通して、現代社会の様々な問題に知識・関心を持ち、自分の意見を的確な文章、話し方で表現できるようになる。
３．短時間で問題文を読み取り理解する力を身につけ、進路実現のための力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す能力・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で理解し表現する力を高めるとともに、国語を尊重してその能力の向上を図る。	目的や場に応じて効果的に話したり聞き取ったりすることで、自分の考えを深めていく。	必要な情報を使い、そのつど適切な文章を書くことによって、認識を深め発展させていく。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだり、自分の考えを深め、発展させる。	言語文化や文法、国語史などに興味関心を持ち、知識を広げ理解を深める。
評価方法	教材の内容に関心を持っているかを授業時の発問に対する回答によって測る。音読の正確性、発問に対する積極性などを参考にする。	要点を押さえて、話すことができるかを、発表やグループワークでの取り組みから評価する。	自分自身の意見を持ち、それを正しく人に伝えるスキルを持っているかを小論文指導によって測る。その際文章表現の的確さも評価する。	正確な読みに基づいて文章を理解できているか、ノートやプリント課題の提出と定期考査によって測る。	擬古文を読むに足りる文語文法の知識を持っているか。一般的な語彙についての正確な知識を持っているか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1	小説	「舞姫」	○	○		◎	○	a:明治時代の価値観や人々の行動様式に興味関心を持っている。 ｂ：グループで登場人物の心情についての意見を発表し、他生徒の意見を聞いて理解を深めることができる。 d:あらすじを理解し、登場人物の行動理由や個性を把握できている。 e：擬古文の用語、明治期の語彙の意味を理解している。	a:グループワークでの取り組みの観察 d:ノート等記述の確認及び定期考査 e:小テスト
	評論	「BELRIN 1888」 「現実・相貌・物語」	○		◎	○	○	a：小説の技法や構造について関心を持ち、理解しようとしている。 ｃ：自分の「舞姫」についての読み方と評論に述べられている主張を関連付けて、的確な表現で意見文を書くことができる。 ｄ：「舞姫」と比較し、筆者の主張を読み取ることができている。 e：用いられている語彙についての正確な知識を持っている。	a:行動の観察及びレポートの点検 d:ノート等記述の確認及び定期考査 e:定期考査
2	評論	「身体と出現」 「動物化するポストモダン」	○		○	○	◎	a：現代社会の問題について関心を持ち、筆者の意見を通して自分の考えを再考しようとしている。 ｃ：評論の要点をまとめて、正確な要約ができる。 ｄ：「ポストモダン」という概念について、評論を通して読み取り、筆者の主張を理解する。 e：用いられている語彙についての正確な知識を持っている。	a:行動の観察及びレポートの点検 d:ノート等記述の確認及び定期考査 e:定期考査
2	詩・評論	「詩人のふるさと」	◎	◎		○	○	a：詩の表現と詩人の考え方・背景との関連について関心を持ち、読み味わうことができる。 ｂ：グループで詩の解釈について話し合いまとめた意見を、適切な表現で発表できる。 ｄ：評論の内容を踏まえ、詩を理解するために、多面的な読み方ができている。 e：詩の技法についての知識を持っている。	a:グループワークでの取り組みの観察 d:ノート等記述の確認及び定期考査 e:小テスト

2・3	問題演習	第１回～第５回	○		◎	◎	○	a：問題演習を通して、評論の内容に関心を持ち、現代社会の問題と関連付けて考えようとしている。 ｃ：本文の内容を正確に要約することができる。 ｄ：文体の特徴をとらえ、論旨の展開を理解できる。 ｅ： 語句の意味について正確な知識を持っている。	a:行動の観察及び演習プリントの点検 c:演習プリントの点検 d:演習プリントの点検及び定期考査 e:定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す能力・聞く能力
c:書く能力　d:読む能力
e：知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。